

# 提 案 概 要

実施期日	7月31日(金)
部会名	中学校 道徳部会

1 提案テーマ 『豊かな人間性をはぐくみ、お互いを尊重する心を育てる道徳教育』

2 単元(題材) いじめを防止 いじめをなくすために

3 学年 第2学年

4 平成27・28年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

① 生徒が自ら課題に取り組み、他とかかわりながら自ら考え生きようとする道徳教育の推進

5 学習指導要領との関連(内容項目)

第3章 道徳 第2 内容 4(3)

正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。

6 実践に向けての課題意識

近年のいじめは陰湿化する一方、問題が顕在化しにくく事態が深刻になりやすいとも言われている。本校ではいじめ防止対策マニュアルを策定しいじめ根絶を目指している。その中で未然防止の観点を重視し、道徳の授業に取り組んでいる。しかし、いじめに関する授業はともすればきれい事になりがちで、生徒が自らに深く関わる問題と捉えて行動を律するまでに至りにくいのが現状及び課題である。そこで、「いじめをなくすために自分たちに何ができるのか」と主体的に考えられる生徒の育成を目標とし、年間計画に位置付けて授業を行った。

7 実践の概要 提案授業までの流れ

第1回 項目4—(1)「いじめは犯罪」

いじめに関して自分達の行動を振り返り、いじめによって受ける罰などを具体的に示した。「いじめをなくすには？」という問いかけには「犯罪行為であることを認識する」などいじめる側の意識についての意見がみられた。

第2回 項目3—(1)「いのちを大切に」

全ての人が家族をはじめ色々な人にとって大切な存在であることを知り、生命の尊厳に気づかせることを目標に授業を行った。自分の命と他人の命の両方のことを考え、日頃の暴言を振り返る意見がみられた。

第3回(提案授業) 項目4—(3)「傍観者」

いじめに関しては同調しないと自分に矛先が向くかもしれないという不安から傍観してしまうことが多いように思われる。また、第1回授業での感想に「いじめをしている人はやめてほしい」とあったように、「自分はやっていない」「やられていない」と問題をどこか他人事のように考え、自分から行動するまでに考えが至らない生徒もいる。本主題で傍観者はいじめの被害者でもあり加害者でもあることに気づかせ、その上で自分にできる小さな心遣いがいじめを受けている生徒にとって心の支えになることを認識させた。学級や学年全体がいじめを許さない姿勢を作るために、行動する心情を育てることをねらいとして授業を行った。

8 成果と課題

<成果>

- ・自分の普段の行動を振り返る機会をもち、他人事ではない「自分事」として捉えることができた。
- ・いじめを防ぐ・なくすために何ができるか具体的な行動を考え、特別活動として『行動宣言』につなげた。

<課題>

- ・いじめ問題は当事者同士の認識に違いがあることも多く、だめだと理解していても気づいていないこともある。表面的ではなく、より敏感に人の気持ちを読み取れる心情を育て、さらに深める場が必要である。
- ・学年や学校として取り組む道徳の授業をどのように工夫・改善していくか。

9 予想される協議の柱

- ・年間を通して継続的に取り組む道徳授業、学校や学年として取り組む道徳教育の実践と工夫について
- ・授業評価(生徒の活動のフィードバック方法)について